

大門地区タウンミーティング概要(要旨)

○日時 2025/10/31 19:00～20:07ごろ

○場所 大門地区センター

○参加者 26人

○説明者 市長、企画政策部長、建設部長、こども教育部長

○議事録(要旨)

※個人情報や個人が特定される内容などは省略しています。

市長

皆さんこんばんは。1日のお疲れのところ、また冷たい雨が降る中、タウンミーティングを開催しましたところ、多くの皆様にご参加をいただきまして、誠にありがとうございます。タウンミーティングに先立ちまして、若干の説明をさせていただきたいと思います。

※(省略)大門地区の説明(別添資料)

※(省略)令和8年度予算編成方針について説明(別添資料)

今日これからタウンミーティングで、皆さんから意見をいただきたいと思っておりますけれども、ぜひ忌憚のない意見で直球をぶつけていただいた方が、私どもも理解がしやすいです。遠慮せずに、どんどんお気持ちをお伝えいただければと思っております。そんな場になることを願って進めていきます。

最初に、区長さんからお話をいただいております。要望事項としまして、県道床尾大門線の安全確保と通学区の見直しによる学校間格差の是正についてであります。まず、県道床尾大門線でありますが、道路幅の少ないところがあり、危険性を感じております。県の方にもしっかりと要望をしておりますし、今年の8月には三番町・四番町の役員の皆様と、県・市で県道の安全確保のための勉強会を開催しております。私もここは事業が進むようにしっかりと要望もしていきたいと思いますし、市のできることも進めていきたいと思っております。後ほど建設部長から詳しい状況をお話しいたします。

そして、もう一つ、通学区の見直しでございます。平成29年から、塩尻市立小・中学校

通学区域審議会に諮問をして、七区の南側を含めた一部地域の通学区域の変更について協議をしておりまして、現在は、令和4年度から大門七区において学校選択制を導入する状況になっております。今回の区長の皆さん、またこの通学区のご意見見直しをというお話ありますので、皆さんと協議する中、地域のお話もあるうと思いますし、保護者のお気持ちもあるうと思いますけれども、子どもが主体になれるような結論を出していける、そんな協議の場を設定していきたいなと思っています。こども教育部長から補足をいたします。

建設部長

それでは、県道の床尾大門線の関係について、私から補足で進めさせていただきます。場所ですけれども、下大門の交差点から二番町の昭和電工（現レゾナック）のガードをくぐつていく部分が対象の路線となります。この路線ですけれども、塩尻市、昭和28年、相当昔ですけども、都市計画決定をしている道路で、その計画上では幅員を11メートルにするといった計画が都市計画で決定されております。状況については、皆さんご承知のとおり、まだ整備済みの箇所はありませんので、0%の進捗となっております。そういうことからも、私どもも地域の方から、交通安全点検、小中学校の交通安全点検等で危険であるということは例年いただいておりまして、何とか整備を進めたいといったことあります。けれども、沿線に住宅が張りついているといったことで、用地交渉、用地買収に対しまして非常に課題があるといったことで、事業も進んでいないというのが実態でございます。先ほど市長からも話が出ましたけれども、8月に、地元の方から声が上がりまして、県の方へお願いをして、勉強会といった形で取り組みを進めておりますので、地元の方の機運も上がってきたということで、私どもも何とかこの事業を着手したいといったことで、継続的に勉強会を広げながら、事業実現に向け取り組みを進めたいと考えておりますので、ご理解をお願いしたいと思います。

こども教育部長

私の方から学校の通学区域についてお話をさせていただきます。桔梗小学校は昭和63年に開校しまして、既に37年経過をしております。桔梗小学校については、西小学校が1000人を超えたために、もう一つ学校をつくろうということで桔梗小ができ、またその翌年には

丘中学校の人数が多くなったので、もう一つ学校をつくろうということで、翌年、広陵中学校を建てた経過がございます。当時は西も桔梗も人数的には同じくらいの人数がいたんですが、時代とともに大門地区の中でも人が増えると、七区を中心に増えてきたとか、また中心市街地を中心とする大門の街中の人口が減ってきたというところもありまして、今現在は西小学校が各学年2クラス、桔梗小学校については各学年1学年を除けば全部4クラスあります。単純に言うと、倍くらいの人数が西と桔梗と人数が違うようになります。この先を見ましても、ユメックスアリーナ、大門七区のところになりますが、住宅も増えてきたりとかして、区の方でも心配していただいているのは、そこで子供たちが増えてくれば、桔梗小が多くなって、さらに広陵中が多くなるんじゃないかと心配されて、教育の平等という観点から、もう少し人数を平準化したらいいんじゃないかとお話をいただきました。この件につきまして、地元の方々御承知だと思いますけれども、何年もかけて通学区域をどうしようかという議論がなされてきて、今があります。その中で、もう一度質問をいただいて、最初は線路を挟んで西か東かという議論をしていたんですが、最近は国道を挟んで北か南かになってきました。けれども、そういうところで、やはり子供の安全を考えて、どこかで切っていただくのがいいんじゃないかというお話を先日僕からいただきました。行政の方で、こういう線引きをしますと決めるのではなくて、七区については選択制ということで、西小にも来ることができる、桔梗小に行くことができる。どちらか選択をしていただくという制度は、令和4年からになります、3年に決めて4年からやらせていただいておりまして、実際には選択とは言っても、当初は桔梗に行く子の方が本当に多かったです。ここ何年か見てみると、国道より北の方でも西小へ来る方が少しずつ増えてきていますけれども、まだまだ桔梗小へ行く子が多いようになっております。その選択制を決めたときにも、今後まだ議論をする余地があるようであれば、地区の方、それから行政とあわせて懇談をしていきながら、いい方法を決めていきましょうということになっておりますので、もし地区の方からやはり何か線引きをしてほしいという要望があれば、話し合いの中で通学区域の変更をすることができますので、今後、もしそういう機会があれば、議論を重ねていきながら、これで来年すぐにとかということではなくて、長いお話をさせていただいて。また市長も言っていましたが、地域の方の考え方と、実際に子供さんを持っている保護者の方の考え方というのが少し違っているところもありますので、そういうところは議論をさせていただく中で、より良い方向を

これから探っていきたいと思います。

市長

まずは区長さん方から寄せられた要望をいただきまして、回答させていただきました。区長さん方の方で追加のお話ございましたらお願いをいたします。

市民

西小からは中学の方は、塩尻中学の方に行くようにと決まっているんですか。

こども教育部長

その選択については、西小に行った子は塩尻中学に行くというようになっています。

市民

それは決まっている話ですか。

こども教育部長

そうですね。小学校を選択する中で、中学を見据えて検討していただいております。ただし、もし中学に上がるときに何かしらの支障があった場合には、教育委員会の方にご相談をいただくようになります。

市長

ご参考までに塩尻中学校は各学年が3クラスで、広陵中学校は1年生と3年生が5クラス、2年生が4クラスと、そんな状況にはなっております。

市民

国道をまたいで桔梗小へ行くということは、過去のバイパスができた時に、高出の子供が事故で犠牲になっちゃったのでね。だからバイパスの行くところにでっかい観音様が建ってるんだけど。そういうことのないようにするために、国道から南の人は西小学校へ通った

方が交通事故に遭う機会がないと。渡っていくってことは、陸橋があるけれども、絶対に陸橋を渡り切れるかどうかって、子供だって人間だから、早く行きたいから車の間にすっと行っちゃうんです。本当に交通事故って考えるとしたら、国道から南は西小学校へ行つた方がいいよってことで、あえて言うならばその桔梗小と西小がさっき部長が言ったように、当時は半分半分ぐらいだったけれども、今は中心市街地をはじめ大門もぐっと人口が減ってきたために、できたらその国道から南は西小ということを行政が主導をとって、地元と調整をする音頭取りをして、何とかその目的になるようなふうにしてほしいなという思いがあります。そうすれば桔梗小に慌ててプレハブをつくるとか、また新しい体育館の方がどんどん子供が増える状況にあるそういうことを見ていけば、やはり国道から南は西小へ通つてください、というようなことを行政主導で地元へ入つて調整をしていけるかなと、もらえるような、そんな気がしますが、いかがですか。

市長

ご指摘のとおり、子供の通学をはじめ、学校生活における安全というのは最優先事項だと考えております。そういう安全性も配慮しながら、私どもが主導しまして意見交換の場をまずは設けていきたいと思っております。ただ、最終的には保護者の選択もありますし、子供が望む姿もあろうかなと思っております。いろいろな選択肢の中から選ぶという今の方も必要な方法なのかなと思っておりますが、行政主導という話で、また皆さんとご意見交換する場、学校の通学に関しては設けていきたいと思っております。ありがとうございます。

市民

西小学校の運営協議会を行つてゐる者ですが、さきほど説明があったように、徐々に西小を希望するような家庭が増えてきて、児童も徐々に増えつつあるんですね。令和3年に選択制を取り入れたものを、これをあえて先程の意見のような後退というか変更させることは、子ども達や家庭にとって非常に不安や心配も出てくるのではないかな、という思ひでいるわけですね。たまたま最初の頃は、PTAの支部のあり方について七番町さんと一緒に七区の子どもたち西小に来る子が一緒に活動させてもらったんですが、非常に不都合が多くて、スムーズにいかないことも多くあったこともあって、今年から七区は七区で西小の支部が、PTA

支部ができているんですね。こういう矢先のことですので、もう少し長い目や温かい目で見守っていただいて、それぞれ選択的にするのは、私は今後継続してもいいんじゃないかなと、思います。安全面のことで言えば非常に問題もあると思うんですが、学校運営協議会の関係でも、安全見守り活動なんかも力を入れてやろうとしているところなので、そんなところも加味しながら意見交換ですので、私の意見は継続するところで、また様子を見てもらえば嬉しいなと思います。

市長

はい、ありがとうございます。今もやっぱり区民の皆さんの中にも様々なご意見があると思いますので、またそういった意見を聞きながら、より良いかたち、また長期的な視点も持しながら進めていきたいと思います。

市民

床尾大門線ですけども、都市計画が決定されていて、全部 11 メーターというと大変な事業なので、それを全部やるとかそういうことではなくて、世帯の増加だけではなくて、その部分の交通安全というような位置づけで、県と調整していただければ多少でも道路の区画ができるのではないかと思って、提案させていただきました。田川町と市の方、特に田川町さんは 65 歳の方が 49% という、これは 40 年前に田川町ができたときの経過からいたしかたないことなんですが、それから 5 年、10 年、15 年たって空き家になった時に、そこに若い人が入っていくけるような形を考えるのは、大門は住宅地としてとても良いところなのでそういう危険なところをそき落としてあげるということを少しでもやってやることで新陳代謝が進んでいくと思っています。特に田川町さんのところはもう一つ、田川の関係も、洪水確率が 100 年から 1000 年に変わったことで、イエローゾーンとレッドゾーンが新しく変わったので、マイナス要素があるのでぜひこういう道路の関係も不安を取り除いていただいて、全部 11 メーターにするということではなく、検討していただければなと思って提案をさせていただきました。とても大事な問題で地権者がありますので、ぜひそのことを可能であれば、地元もよくて県も動いてくれると言えばいい状態が生まれるなあと提案をさせていただいたというレベルでございますので、お願ひします。

市長

はい、ありがとうございます。大門三番町の公民館があって、大門神社の周辺一帯になりますけれども、あの辺は非常に危険なところでありますし、田川町とつながるそういう道でありますので、そういう安全面の確保が図られるような策を進めてまいりますし、また、地権者のご協力が得られれば、道路整備というのは方向性もあろうかと思います。市としても、しっかりそこは県と連携をしながら進めていきたいと思います。

市民

当事者として、補足です。田川町の中も危険なところもありまして、本来であればそこで交通安全の活動をお願いしていかなきゃいけないんです。それ以上に、今、県道床尾線のところ特に大門保育園出て大門神社までのところ横断歩道もあって、田川町の子供たちも道を渡るということもありますし、今、交通安全の方はですね、田川町の中でやるという活動よりも、田川町から出て床尾線の横断歩道のところ大門保育園を出たところで今活動しています。そういうことも含めて、ぜひご検討いただければと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

市長

はい、ありがとうございます。子供たちの通学路であります。道路にペイントをすることによってスピードを抑止するとか、横断歩道をより目立つような、そんな手法もありますので、安全対策だけはしっかりと取り入れていきたいと思っております。はい、ありがとうございます。

ここから自由なテーマで進んでいきたいと思います。

市民

先ほど市長さんがお話しされていました「塩尻未来投資戦略」の大切にしていることの1・2・3に関する話を、私からさせていただきたいと思います。タウンミーティングは私、今回で3回目になります。私は市内で助産師をしています。私の声が市政に届くように、小さ

な取り組みにはなりますが、継続することが誰かの力に、誰かの役に立つことになるかもしれないという思いで今回も参加させていただきました。国の施策に第6次総合計画にも包括的性教育への取り組みが謳われています。包括的性教育とは、幼児期から発達、成長に合わせて性、体、心を丁寧に繰り返し積み重ねた学びのことを言います。これは生活の基盤にもなりますし、幸せになるために必要な学びでもあります。ここ数年で子どもたちを取り巻く環境は目まぐるしく変化し、家族関係の希薄化やSNSに関するトラブルの増加、親の生きづらさが子どもたちを巻き込んでいます。この社会の中で、子どもたちの生きる権利というものが守られているのでしょうか。これだけ社会に対して子どもの生きづらさの実態があるにかかわらず、包括的性教育が進まない最大の原因は、文部科学省が学習指導要領に歯止め規定を設けているからです。例えば、小学校小学5年生の理科では、人の受精に至る過程は取り扱わない、中学1年生の保健体育では、妊娠の経過は取り扱わないと記された性教育の文言が大きな壁になっています。

現在、歯止め規定に関する撤廃署名実行委員が立ち上がっておりまして、撤廃署名活動が始まっています。子どもたちの学ぶ権利を大人が奪ってきました。大人としての責任として、今こそ包括的性教育を推し進めていくことが必要と思っています。10代で性被害に遭い、人生を苦しみながら生きている女性がいます。また、性被害にあっても、それを被害という認識と気づかない女性もいます。暴力とは何か、知識がないために気持ちを言葉にする困難な女性もいます。望まない妊娠で中絶に来る女性たち、困難な状況を抱えながら一人受診に来る女性たちがいます。どんな時も女性が苦しみを強いられ、人生の選択を背負ってくるのです。知識があれば、きちんと教育を受けていれば、たとえ被害にあっても、その後の人生を守ることができると思っています。社会に出たら、もう子どもたちは性を正面から学ぶ機会を失ってしまいます。それで、松本市の取り組みなんですが、2021年に臥雲市長がパートナーシップ制を取り入れたことで、性の多様性の学びを子どもたちに届けています。松本市人権共生課と”人間と性”教育研究協議会、性教協といいますが、長野サークルが合同で発達や成長過程に応じたプログラムを作り上げ、松本市性の多様性講座、市内の小中学校48校に届け、毎年内容をアップデートして届けています。今日、その仲間も一緒に来てくれました。松本市でありながら、ぜひ塩尻市としても包括的性教育の取り組み、すべての子どもたちが学べる機会をつくってほしいと思っています。大人の責任として

教えないことは無責任である認識を持ってほしいです。子どもたちの未来を守るために、私、今回3回目になりますけれど、この種まきがいつか芽が出て花が咲くことになるように、ぜひ行政のお力も一緒に借りれたらと思っています。

市民

今言ってくださったように松本市から今日参加させてもらっています。私は元養護教諭で、塩尻の学校にも大変お世話になって、松本市ではありますけれども、塩尻の住人のような気もしてきております。今、前の人から性教育の関係を伝えてもらったんですが、私たち中信地区のエリアでユースクリニックまつもとを有志で立ち上げました。仲間は私のような者もいれば、助産師もいたり、あと産婦人科の医師、それから小児科の医師とか、あと子育て中の一般会社員とか。7、8名くらいで今立ち上げて、活動を始めているところですが、要は若者10代、20代の若者世代に性の悩みを中心に心の悩み相談の窓口になりたいなというふうに思って、無料で相談をしていこうというところです。なぜそういう相談窓口というかユースクリニックまつもとを立ち上げようとしたかというと、若者の性の悩みの方がね、持つて行くところがないんですね。ハードルが高いし、私も学校現場にいたので、本当に毎日子どもたちと顔を合わせている中では、いろいろ相談に来てくれる子もいます。けれども、悩みを抱えている方もいるし、ましてや学校を卒業すると、なかなかちゃんとした情報に出会えないということもあったり。前の人にお話されたように切羽詰まった状況もあったりするので、何とか若い世代にきちんとした知識を発信しながら、また悩みも相談して、必要であれば関連機関につなぎましょうというところです。ユースクリニックというところは、発祥が北欧のスウェーデンなんですね。それがいろいろと各地にはいってきています。日本でも今年60団体ぐらいですかね、立ち上がって活動を始められていて、成果が出ています。なので、長野県の松本地区でも私が立ち上げたわけです。ぜひ私たち力不足でまだまだ有志で立ち上げたものですので、これから実動も伴っていくわけですが、御理解をいただいて、ぜひ行政の方たち、塩尻市としても何か後押しをしていただいたら、一緒に連携していただけると大変ありがたいなと思うところです。

市長

貴重なお話ありがとうございました。包括的性教育のお話ありましたし、私どもも計画の中で若い年代から性に関する正しい知識が普及しているとか、高校生に対する性教育講座の実施というのを掲げております。分析すると、何ができているかと言われると、なかなか進んでいないところも事実ありますので、松本市の事例を参考にしながら、また皆様方とも連携もしながらできることを進めていきたいと思っております。一昨年のタウンミーティングの中では、性教育は人格の中核であるとか、性教育を教えないことは非常に無責任なことだとか、そういうお話をいただいておりますので、そういうのも進むようにしていきます。これがいわゆる全国的な性犯罪であるとか、性被害の抑止につながっていくことが必要なことかと思っております。市単独で取り組むよりは、より広いエリア、広域的に周辺の自治体と連携していくことも大事だと思っておりますし、県内においては、県議が議会で質問しているような、そんな経過も記憶をしておりますので、市としましてもでき得ることを取り組んでまいりたいと思います。貴重な御意見ありがとうございます。

市民

予算資料の表の見方をまずお聞きしたいのですが、財政状況ということで、令和6年の決算の状況ですね。そこに表として実質収支が4億6800万円の黒字、その下の実質単年度収支がマイナス2000万円ということは、4億8800万円の返済をしたという理解でよいですか。

市長

ちょっとニュアンスが違いまして、いろいろとこの4億6800万円から数字の調整を入れております。財政調整基金という、市で約50億ぐらいある基金がありまして、それを取り崩して予算を組んでおります。そして、その事業を開始して決算が出ますと、残高を基金の方に繰り戻す、そういうような作業を行っておりますが、それを差し引きしていくとこの数字になります。どういうふうに数字が出るかというのを申し上げますと、非常に複雑なお話で申し訳ないんですけども、実質収支4億6800万円から前年度からの繰越金を引きます。そうすると単年度収支というものが、2490万円になります。そこに財政調整基金から積み立てた額が積み立てた額が2億5400万円ぐらいあります。その前の予算の段階で取り崩

した額が3億円あります。そういう足し引きをして出てくる数字が2073万2000円となります。

市民

だいたい分かりました。どこかの銀行とか、あるいはどこかの組織にお金を借りているということではない言い切っていいですか。

市長

いいです。市が今まで積み立てている、持っているお金を使っておりますけれども、結果的にはそのお金が目減りしてしまうと、そういう状況にはなってきています。

市民

ということは、令和6年度で4億数千万円を繰り入れたということですか。

市長

基金に戻したのは2億5000万円ぐらいであります、繰り入れる前に3億円取り崩して使っておりますので、そういう差と前から繰り越してきたお金もあるものですから、そういうのを加味すると、実質的には約2000万円の赤字と、そういう状況になっております。

市民

端的に健全な運営をしているということでいいですか。

市長

端的に申し上げますと、赤字でありますので非常に危機感はあります、いろいろな財政上の指標がありまして、そういうのを見ていきますと、「健全性は保たれている」そういう表現になります。必要なものに必要な投資はしておりますけれども、端的に言えば、健全性は保たれていますけど、危機的な状況でもあるとこれがずっと続していくと、貯金もどんどん減っていってしまう状況が生じてまいります。

市民

4億繰り入れたら結構貯まっているように見えますが、そうではないんですか。

市長

予算上はですね、貯金の関係でいきますと、3億円を繰り入れて2億5000万円を返したというような状況になっております。

市民

あと、木質バイオマスの状況はどんな状況ですか。

市長

木質バイオマスの状況を今申し上げますと、皆さんご迷惑をお掛けいたしましたけれども、令和5年に、経営上の見直しとかがありまして、今の木質バイオマスの単年度収支でありますと、黒字の見通しがようやくここで建ちましたが、まだまだ累積の赤字を解消できる段階ではございません。見に行っていただきますと、非常に苦しかった時の状況と、貯まっている木の量が全然違います。今、本当に燃やせるだけの木の量がありますので、今、定期点検以外であれば、順調に稼働をしております。冬になると朝、水蒸気が上がっているのが見えると思います。そういう状況で木質バイオマスは今、いい感じにようやくなつてまいりました。

予算の健全性のお話がありましたけれども、私ども財政力指数や、経常収支の比率、今予算全体に占めて常にもう出ていってしまうお金の比率、そういったものは借りているお金の比率、将来どんなふうに負担していくか、そんな財政指標がありまして、そういうものを見ている中では、今のところ健全性は保たれています。けれども、経常収支の比率が伸びておりまして、経済収支の比率が伸びると、いわゆる投資的に使えるお金が減ってきてしましますので、そういうものも厳しい状況になっていると、そんな状況であります。ありがとうございました。

市民

緊急避難場所への AED 設置を市の政策としてやってもらえないかというお願ひです。具体的な例を申しますと、二番町の方ですが、今年度 8 月に公民館に集まりましたけど、その時に具合が悪くなった方がおられまして、救急車を呼びました。その時には AED を使うような事態にはたまたまならなかったんですけども、その時に、今日出席している方に大変お世話になりました。その時に話をして、こういう公民館は指定避難所となっていることもあるので、AED があってもいいよねという話をしました。今、大門の中では田川町のように既に AED を設置している公民館もあるんですが、公民館としてぜひ AED を設置することをしていただければありがたいなと、そういうお願ひです。

市長

はい、ありがとうございます。AED であります、行政連絡長会議でもお話が出ました。市としましても、市で管理しているものは分かっていますが、公民館や区で独自にやったところはまだ把握に努めているところであります。安全面で言いますと、AED があったに越したことがございませんので、整備が進むようにしていきたいのと、イベントの時は市の方で貸し出し用の AED を持っておりますので、そういうものを借りていただいて用意するというのも一つの手段かと思います。AED に対しては課題を感じております。また一方で、常に作動するように維持管理をしていくというのも AED が導入されてから、今更新期にも入ってきておりまして、それも課題の一つかと認識しておりますが、ご意見、非常に大事な意見、命を守るためのものでありますので、検討を進めていきたいと思います。ありがとうございます。

市民

80 代のシニア世代を生きている者です。認知症について非常に恐れというか高齢化もあって、身近に感じております。正しい認識をして、認知症になつてもその地域でその人の個性を伸ばしながら生き生きと暮らしたいというのが理想なんです。けれども、なかなか認知症というのをすごく恐れてしまつたりとか、何でも失念してしまうとか、そのために家族が非常に苦労してしまうことがあまりいい状態ではないと思っています。そこで認知症カフエ

というのを今全国的に広がっているようなんですが、塩尻市には社協がやっている3カ所しかありません。大門地区にも1カ所できたらいいなと思っております。大門地区にもかなりの高齢者がいらっしゃるんじゃないかと思うんですが、なかなか表に見えない状態になっています。それと、私たちシニア世代、子どもとの関りが本当になくて、子供のことがあまり理解できない。なぜかというと結婚をしない。子供はあまり生まない。生んでも一人二人。孫が来たって常に離れてしまいます。それで高齢者も孤独です。子供食堂が今の話題ですが、これも大門にはありません。大門にぜひ認知症カフェと子ども食堂ができたらいいなと思っています。シニア世代には時間に余裕がありますので、元気な高齢者がボランティアしたいという、塩尻のまちで恩返しじゃなくて、恩送り、今までしてきていただいたものを次世代に返していくという言葉だそうですが、ぜひシルバー世代の力をフルに利用してカフェができたらいいなって思っています。その認知症カフェが1カ月に1回か2回、子ども食堂も1カ月に1回か2回、その他はシルバーカフェ。格安のシルバーカフェでシルバー世代が気楽に集まって、そういうところが大門地区にあったらいいなと思います。大門はお店が閉まってしまってもったいないと思います。何とかお店でなくていいので、そういう志のあるシルバーができるようなことがどんどん増えていったらいいと思います。

市長

ありがとうございます。まず認知症のお話ありましたけれども、オレンジカフェ、認知症カフェ、市内でも各所で開催をしておりました。10月は認知症の防止というか、認知症にならないための強化月間だったので、市役所をオレンジ色にライトアップする取り組み、広報塩尻9月号で認知症を大きく取り上げて取り組みなどをご紹介したところでございます。超高齢化社会に入りまして、いかに健康で歳を重ねていくかというのが、非常に大切な時代になっておりますので、認知症の取り組みが進み、認知症を防止するような、いわゆるフレイル対策というのを進めていきたいと思います。大門ですと、ウィングロードビルの2階に、ゲームやるコーナーがあります。今eスポーツで、認知症予防をする講座を開いてありますので、もしご興味ありましたらご参加いただければと思っております。ねんりんピックにも、出場されている方いらっしゃいます。そんな取り組みをしております。

また、子ども食堂の関係でございます。今、市で子どもの居場所づくりの補助金というの

を持っておりまして、その補助金を使っている団体が10団体あります。大門五番町の分館で、こども食堂を9回、今年開催している実績もあります。こども食堂も、今いろんなところでやっておりますので、そういうのができるような、そんなまちづくりを進めていきたいと思っております。

市民

補足させてください。今市長さんが言われた五番町の分館でやったのは、夏休みの子どもが参加する活動の一環の中で、朝、ラジオ体操が終わった後におにぎりだけ持ち込んで、味噌汁を作りこどもたちと一緒に活動をしながら進める。これは分館の活動ですので、大門地区全体というわけにはまいりませんが。もうひとつ、この大門公民館で学習広場という学習の機会を提供して、最終日にカレーライスを作り、子どもたちにも食べていただくというような活動も進めてきています。まだまだ先程のように補助金を使えるような形での本格的なものではないんですが、それでも少しずつでもこの活動を進めている方向でやっていますので、協力の機会がありましたら、ぜひお願いしたいと思います。それから、子どもたちとの関わりが非常に少なく、ぜひその中、先程申し上げたように、学校運営協議会で西小に学運協だよりというお便りが出ていまして、そこには実は今まだ募集してある役の人をお願いしてます。その人には朝、学校に子どもたちが登校した時に、学校内で子ども達に声掛けをするおはよう先生というシステムを予定してて、今実際は1,2人の人数の中で進めているんですが、これも何回かPRさせていただいているんですが、なかなか浸透にならないので、ぜひまた学校外から来ていただいて、子ども達に毎朝声掛けをしながら子ども達との交流をするというようなシステムになっています。もし興味と感心ありましたら、ご協力いただければありがたいなと思います。

市長

貴重なご意見ありがとうございます。子どもの居場所づくりというお話がありましたけども、特に夏休み中の子どもの居場所をどう確保していくかというのは非常に大事だと思っています。五番町の公民館で夏休み中の子どもたちが集まってやっている姿も、私、拝見させていただきまして、五番町は子どもが多いとこでもありますし、子ども達も生き生きとさ

れておりましたけども、やはりそれに関わっている大人の皆さんのは、こう、私が言うのもおこがましいですけども、非常にいいなと思いながら拝見をさせていただきました。また、ここで開催された学習支援の会場も見てきましたけれども、周りに図書館から借りてきた本を並べたり、子どもたちが学ぶ意欲が高まるような、そんな環境ができたと思っております。そして、おはよう先生の話がありましたけれども、横断歩道に毎朝立っていただいている方もいらっしゃいまして、大門の西小のそばにど根性ねぎもあったりと、そんなことも伺ってました。桔梗小をはじめ、いろんなところで毎日見守り支援を長い間続けていただいている方がいますので、そういう活動の輪が広がっていくことは非常にいいなと思っています。そういうところもまた連携しながら進めていくようなところを見ていきたいと思います。

また、学運協だより、私まだ見たことないので、もらって拝見をしていきたいと思います。ありがとうございました。あとお一方、最後お願いをいたします。

市民

せっかく子ども食堂の話が出たんですけども、市として大門だろうとどこだろうと市民に立ち上げ方法をもっと知らしめたほうがいいと思うのです。例えば、立ち上げ時に補助があるとか、1回行事を行うと8000円担保されるとか。そういうようなものを明確に示して、子ども食堂をやればこういうことでやれます。ここをもっと知らしめた方がいいんじゃないかなと思ってますので、よろしくお願ひします。

市長

はい、ありがとうございます。子ども食堂に関しましては、昨日の宗賀のタウンミーティングでもご意見が出ました。特に子ども食堂に対する支援は、松本や安曇野に比べて額が非常に少ないというようなお話をいただいていますので、そういったところを見直すと同時に、どういう風に立ち上げていくかとか、立ち上げするとどういう支援があるか、PRしていきたいと思っております。子ども食堂の開催については、例えば一人親で子を育てている方には、メールで情報を配信したりPRしたりするような、そんなところも努めておりますので、子ども食堂の活用で、子どもたちが、この地域でいきいきと育つことは非常に大切だと思っ

ておりますので、取り組み、また PR もしっかり進めていきたいと思います。ありがとうございました。

お時間も 8 時回ったところでございます。今日までタウンミーティングを通じまして、いろいろな意見を頂戴いたしました。このような意見、来年度に向けて様々な事業を今出来得る限りつなげていきたいと思いますし、お話の中には、来年度だけではなくて、中期的、長期的にも見据えて取り組まなければならぬこともあります。私どももまた、こういう機会を通じて皆さんのお意見を頂戴いたしますし、私自身もいろんなところにイベントとか、今の時期ですと文化祭とかに顔を出しておりますので、見かけたら市長さん、市長さんって声をかけてくれて、「これこうなってるけどどうなんですか？」とか、そんな話を気軽にお声かけをいただければと思っております。引き続き、皆様方との対話を大切にしながら、市政をしっかり進めていきたいと思っておりますし、また、未来にもつなげていきたいと思いますので、引き続き皆様のご協力を願い申し上げまして、今日のタウンミーティングを閉じたいと思います。本日は誠にありがとうございました。